

ワーキンググループ²

活動報告

—社会受容性の検討—

2015/10/5

テーマ設定

社会受容性について議論・検討していくにあたり、分散PDSの特徴を活かせそうな領域として、下記2つのテーマ領域を設定。

スマートタウン

スマートライフ

議論のポイント

設定したテーマをベースに、主に下記の観点で議論を実施。

個人の利便性

メディエータの役割

収益モデル

ルール作りの必要性

スマートタウン

スマートタウンの定義

ICT技術を駆使して、そのエリアに住まう人が、
安心・安全に快適・便利な暮らしを送り、その個人を顧客とする事業者側も事業が活性するように
考慮された街や都市

ヘルスケア

モビリティ

コミュニケーション

セキュリティ

エネルギー

ショッピング

イエナカの暮らしとプライバシー

スマートタウンで提供される様々な便利なサービス。
その反面で、便利なサービスを利用すればするほど、
個人はパーソナルデータ（センサー情報、他）
を開示している状態となるのではないか。

- 何時に帰宅しているのかわかる
- 不在状況がわかる

オートロック
の鍵

- 電力量がわかる
- どの部屋にいるのかまでわかる

スマートメーター・HEMS

スマート家電

- 家電単位の電力使用量がわかる
- 料理している時間帯、洗濯している時間帯がわかる

コンシェル
ジュサービス

- 家の在宅状況がわかる
- おしつけがましいサービス案内がくる

イエナカで発生するさまざまなパーソナルデータ
事業者に対し、知らぬ間に暮らし振りがオープンに！？

プライバシーに対する懸念

イエナカードータのコントロール

安心、安全、快適な暮らしの充実度は生活者個人により様々



個人の意思

P D S

個人 : より便利で付加価値の高いサービス、全く新しいサービス
事業者 : より精度の高いマッチング、新たなビジネスの可能性

電力使用量データの利活用

スマートメーターやHEMSで管理される電力使用量データをPDSで制御・開示し、見守りサービス（長期間電力使用量に変化がないとアラートを上げる）やスーパーなどの流通業者のリアルタイムクーポンサービス（電力逼迫時の外出促進）を受ける。

- ・ 電力使用量
- ・ 家族構成
- ・ 趣味・嗜好

スマートメーター・HEMS



PDSに登録



データ開示

提案

見守りサービス

リアルタイム
クーポン・タイ
ムセール

時間限定グルメ

...

設置機器データの利活用

設置機器に関する保証期間や型番、購入店舗などの情報をPDSで管理し、メーカーやメンテナンス業者に予め開示しておくことができれば、適切なタイミングでオファーを受けることが期待できる。メーカーやメンテナンス業者にとっても、機器の保証期間や状態を把握することで、買換えやアフターメンテナンスの提案もできるようになる。また、修理や消耗品のケースだけでなく、該当する機器にリコールが発覚した場合も、個人、メーカー双方にとって、PDSが有益なツールになり得るのではないかな。

- ・ メーカー
 - ・ 型番
 - ・ 購入年月日
 - ・ 購入店舗
 - ・ 保証期間
 - ・ 修理履歴
- などのデータ

各種電化製品

- ・ テレビ
- ・ 冷蔵庫
- ・ エアコン
- ・ 洗濯機

など

PDSに登録

PDS

業者やメーカーに
機器データを開示

買換えやアフターメンテナ
ンスの提案、
リコール情報の発信

メンテナンス業
者 A

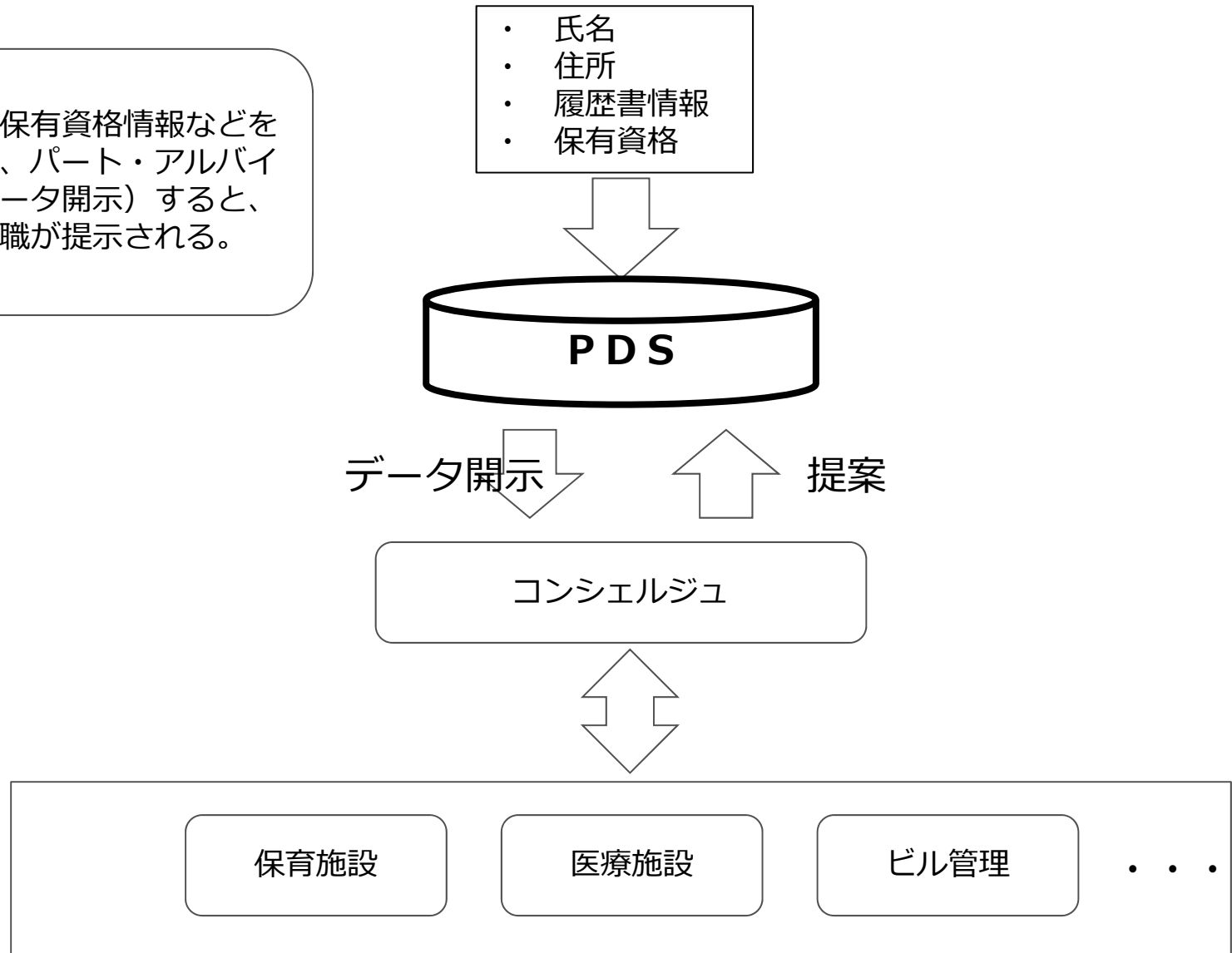
メンテナンス業
者 B

機器メーカー A

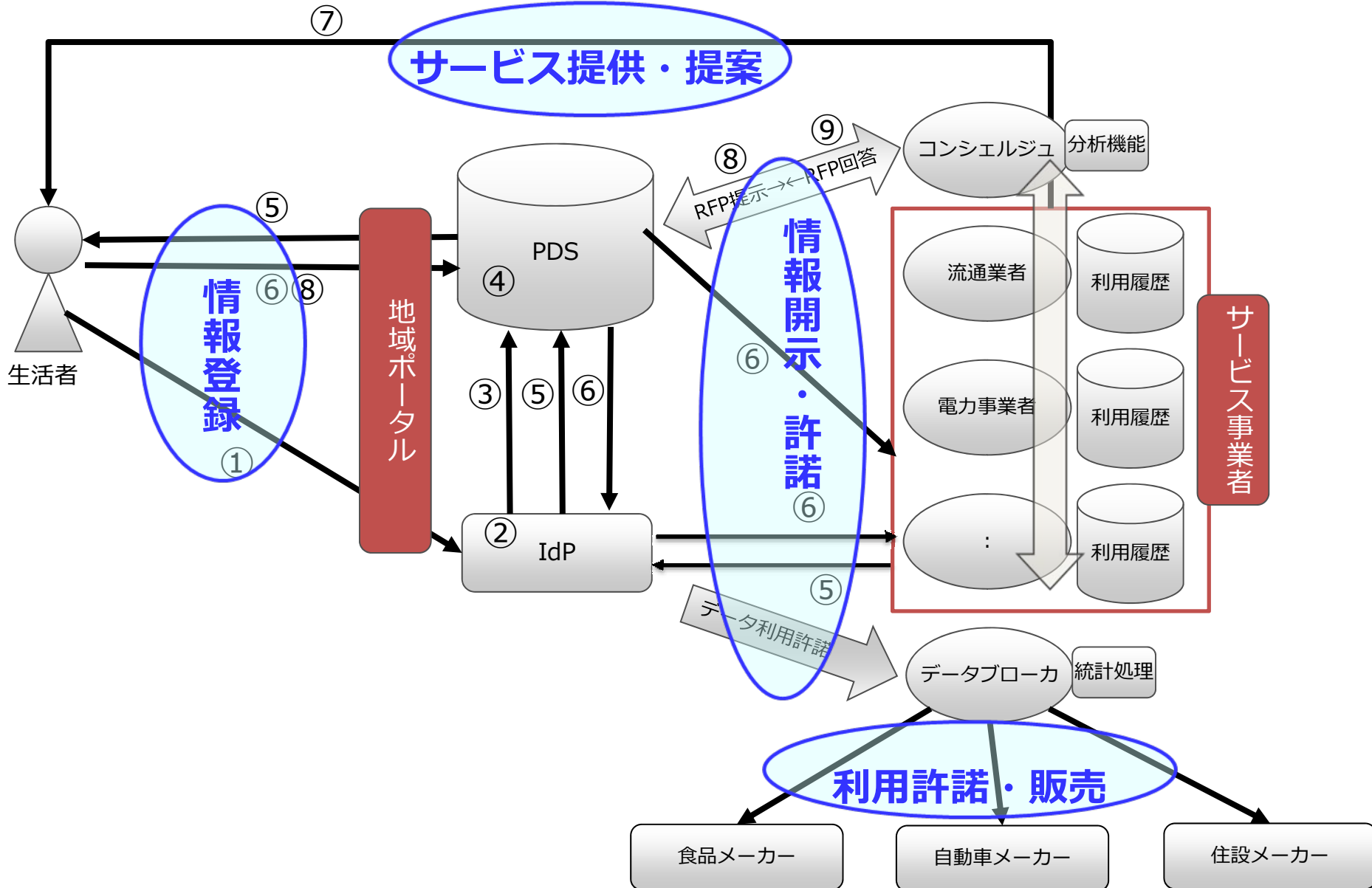
機器メーカー B

パート・アルバイトにおけるマッチング

履歴書情報や保有資格情報などをPDSに保持し、パート・アルバイトに応募（データ開示）すると、条件に合った職が提示される。



サービスモデルの仮説



スマートライフ

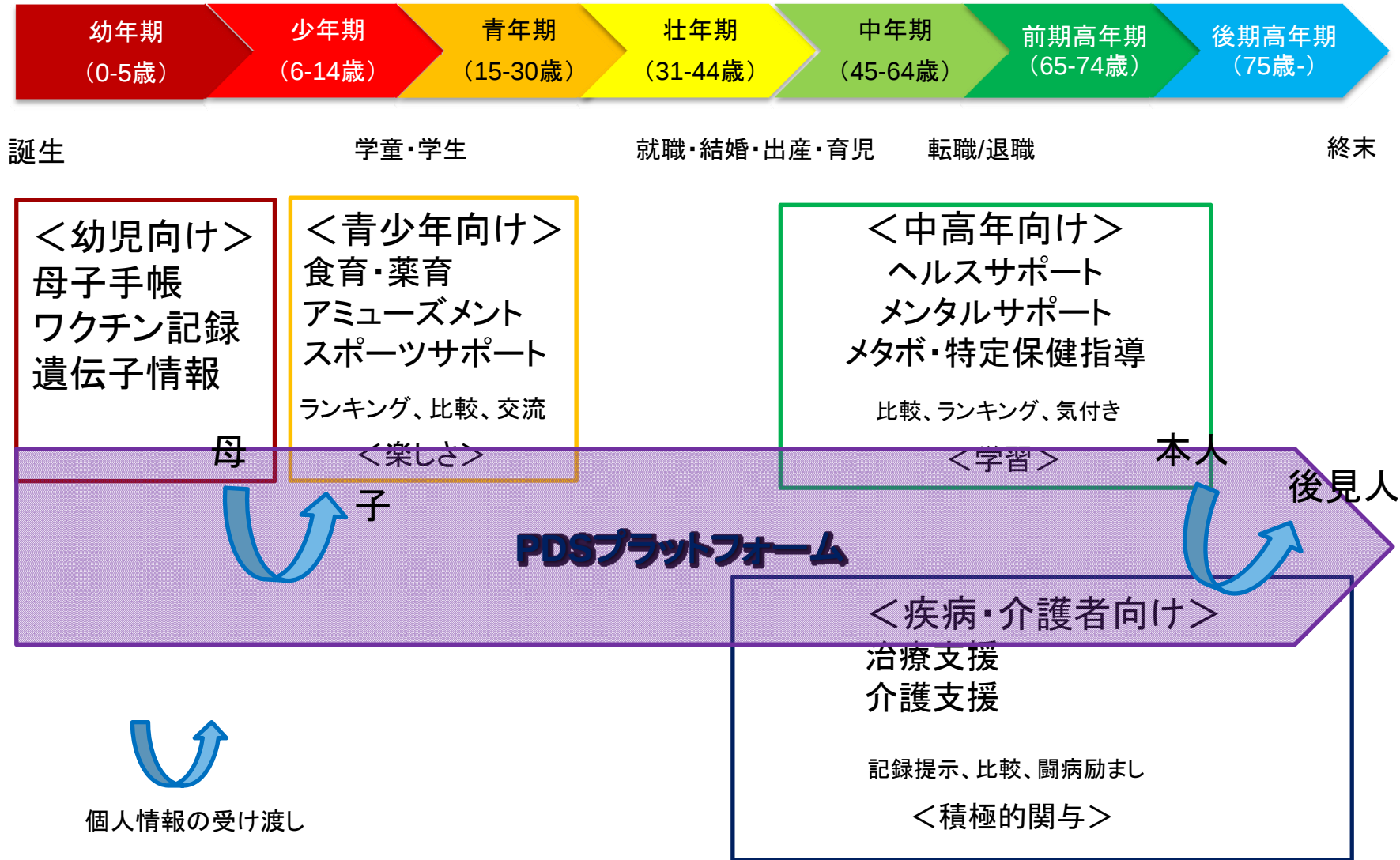
スマートライフの定義

「健康寿命をのばしましょう」をスローガンに、国民全体が人生の最後まで元気に健康で楽しく毎日が送れることを目標とした国民運動

3つのアクション

- 1)適度な運動
 - 2)適切な食事
 - 3)禁煙
- ＋健診・検診の受診

スマートライフにおける ライフステージと想定アプリ



ケース1 旅行先での体調不良

これまでの既往症、受診歴、服薬などの情報を
初めてのドクターに思い出して話す、お薬手帳があれば見せる



病院



内科クリニック



A眼科



整形外科



B皮膚科



X調剤



Y調剤



Z調剤

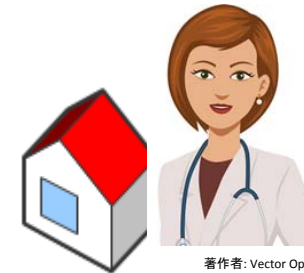
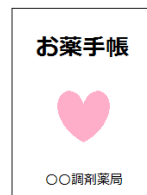
・内科の受診は思い出したが、眼科等にかかっていることを失念している
・お薬手帳は2冊あるが、ひとつしか持っていなかった

・持病はありますか？
・薬を何か飲んでいますか？
・この症状は過去もありましたか？



病院と内科クリニック
について話したが、
眼科、整形外科、皮
膚科は伝えなかった

薬の服み
合わせや
合併症に
ついて情
報が伝わ
らない

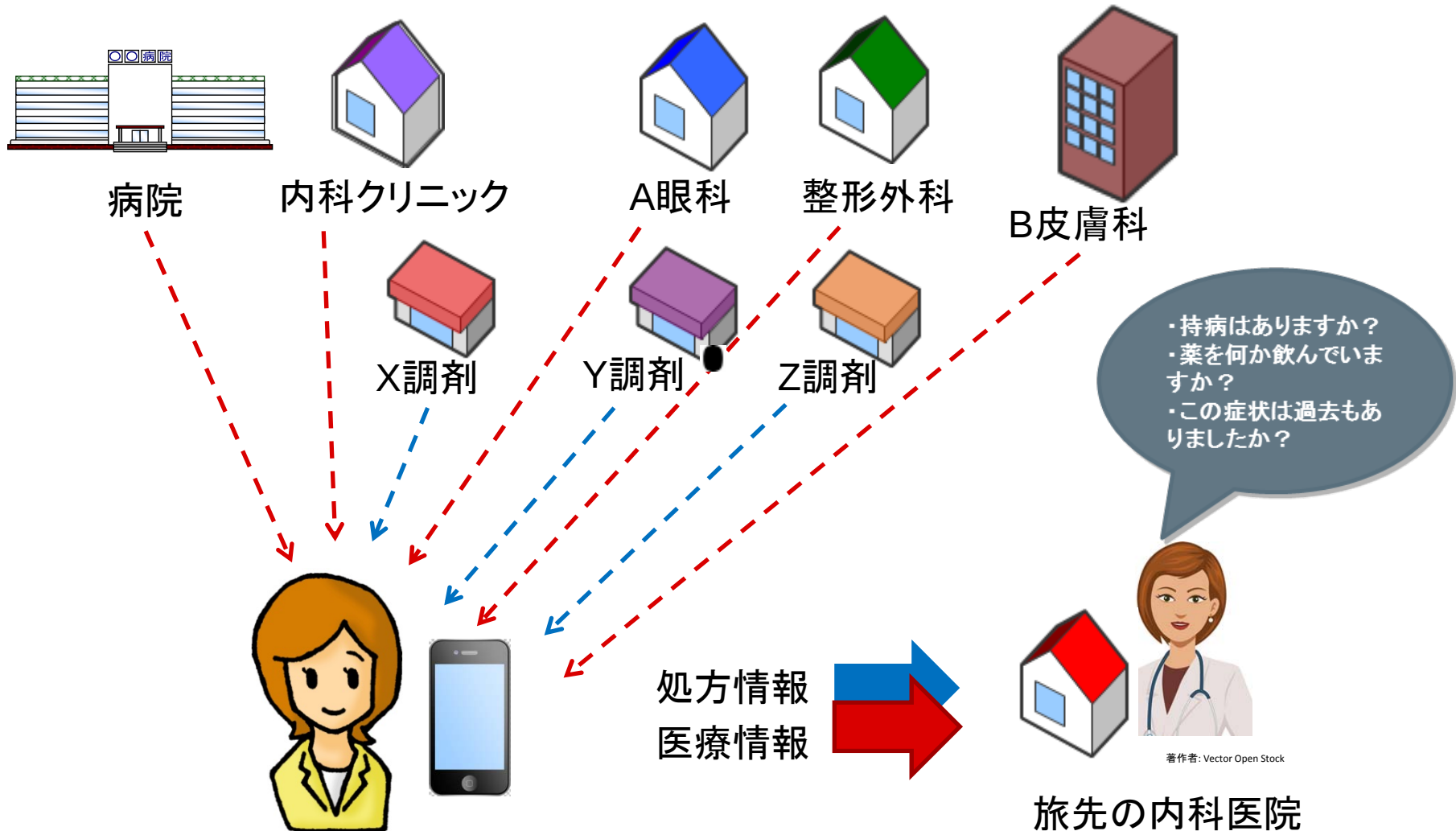


著作者: Vector Open Stock

旅先の内科医院

ケース1 疾病管理手帳

これまでの既往症、受診歴、服薬などの情報を
初めてのドクターに分散PDSで一覧に見せることができる



ケース2 透析患者の遠出



病院



透析クリニック



震災後、「平時の患者への透析条件の情報提供」をする透析実施施設は増加しているものの、透析記録のコピーを患者に提供している透析実施施設は10%程度（「わが国の慢性透析療法の現実（2011年12月31日現在）」（日本透析医学会））。

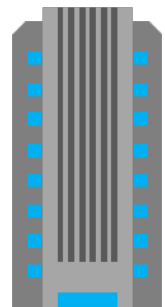
透析クリニックや患者会のネットワークを通じて、旅先の透析実施施設を探したり、透析食に対応している宿泊所を探したりするのに手間がかかる。



著作者: Vector Open Stock

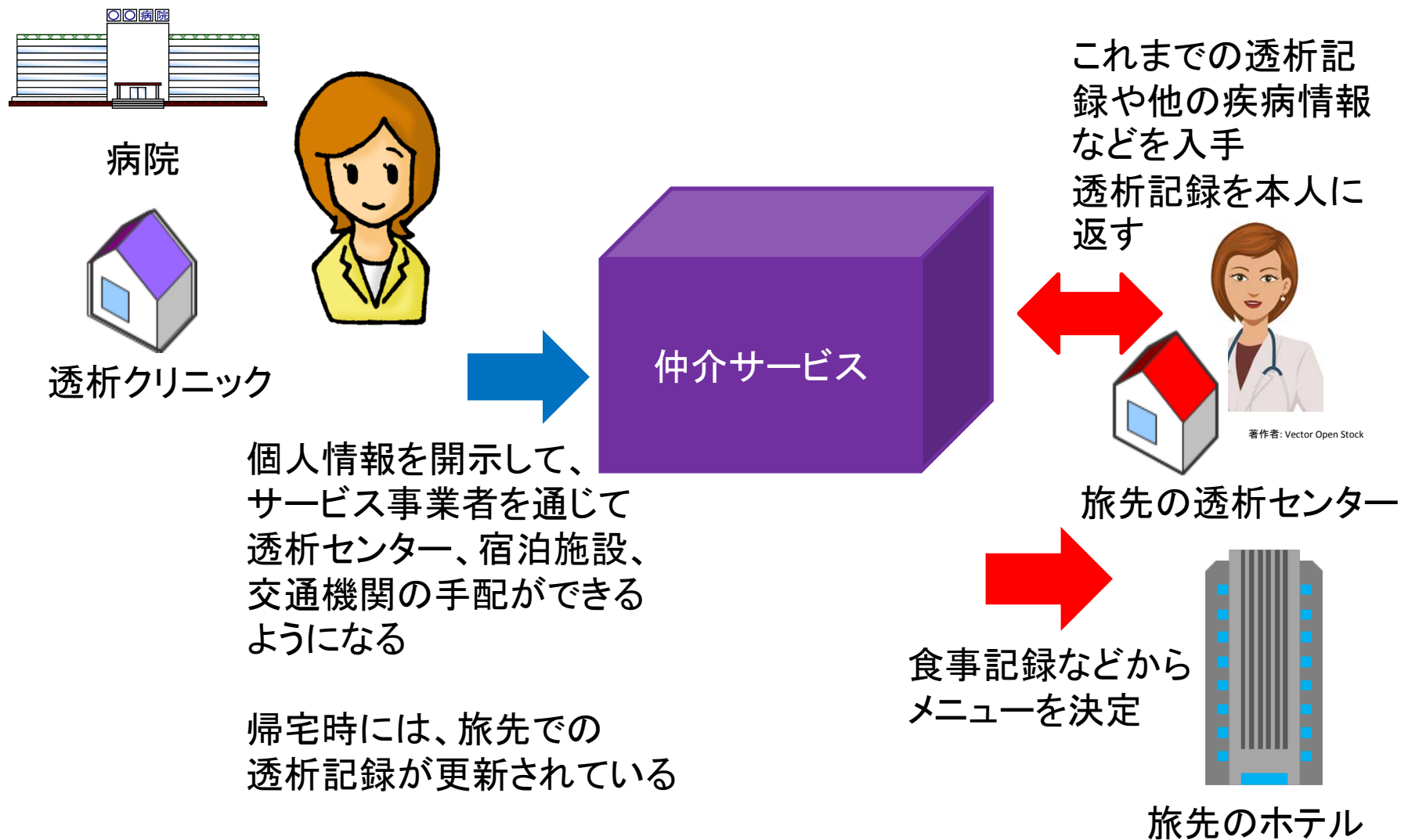


旅先の透析センター

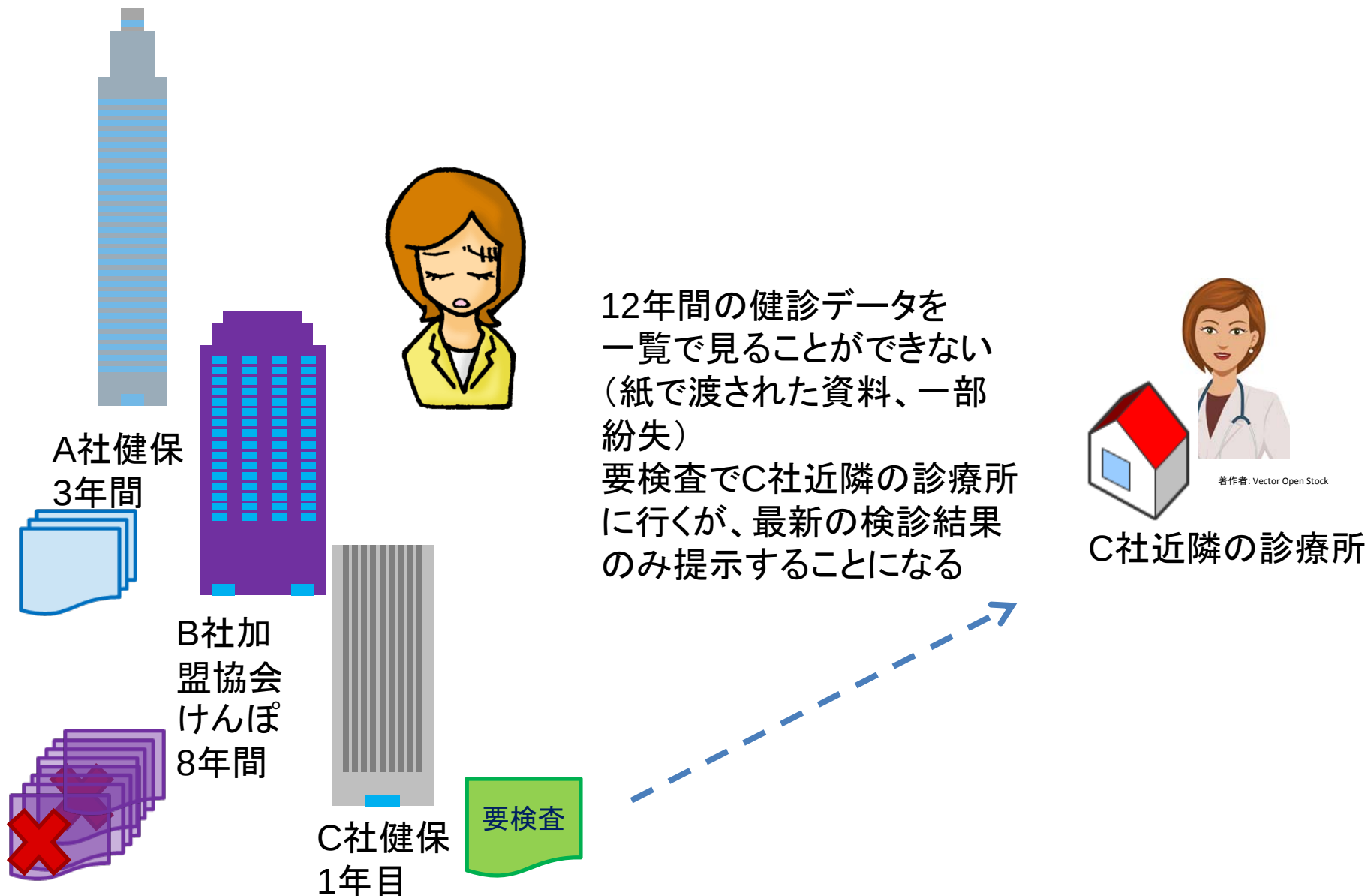


旅先のホテル

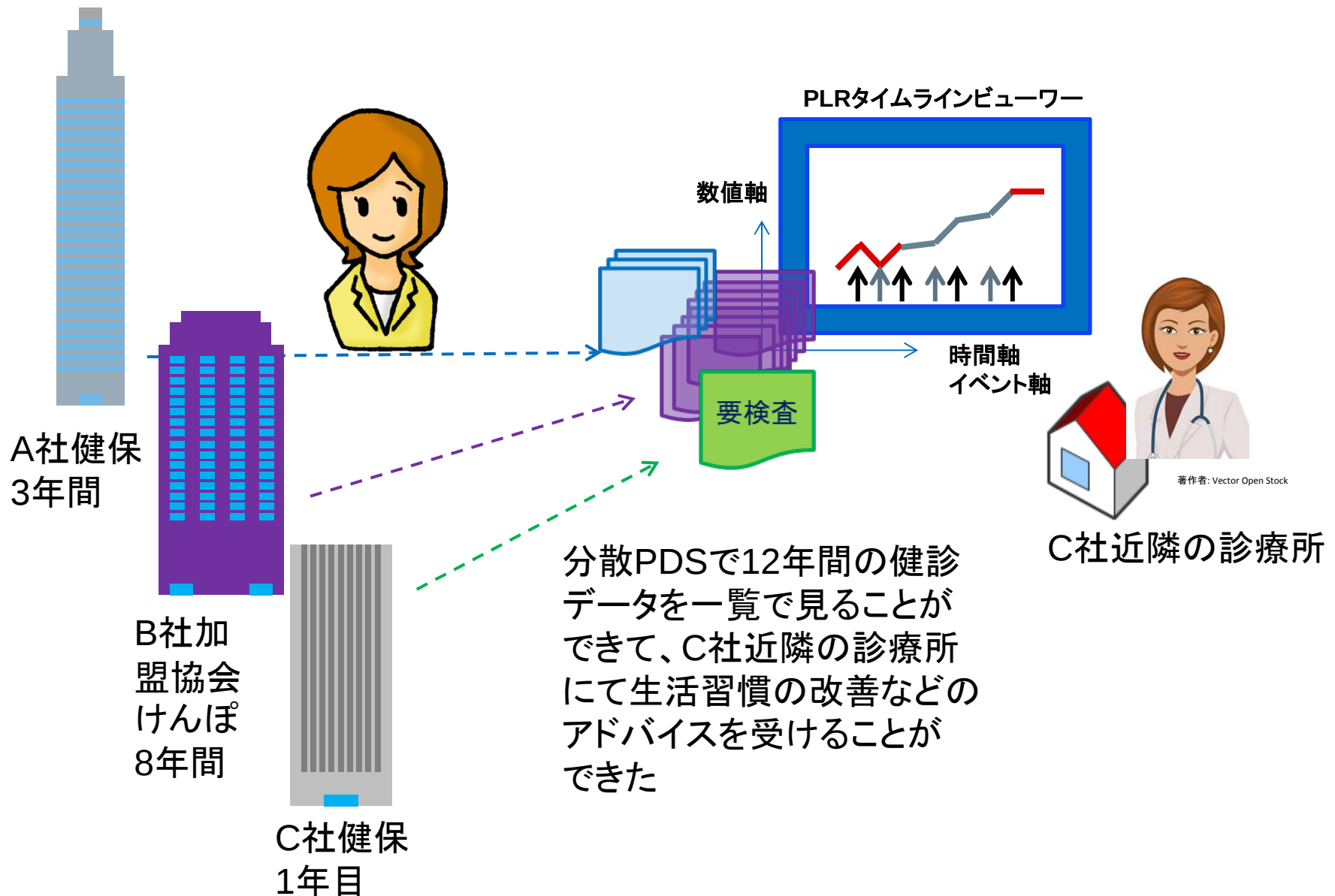
ケース2 透析患者サポート



ケース3 3回目の転職先で要検査の健診結果



ケース3 個人健診データ



ケース4 患者の孤立



自分の症状と同じ人はどのようなことで対応しているのだろうか知りたい、、、
匿名性を維持して、患者同士の話をしたい、、、
本当の情報について知りたい、、、
専門医や専門職のアドバイスを受けたい、、、
患者会があるようだが、敷居が高い、、、

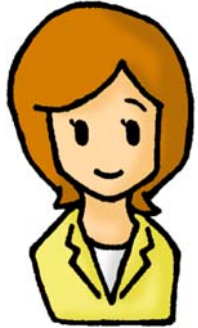


著作者: Vector Open Stock

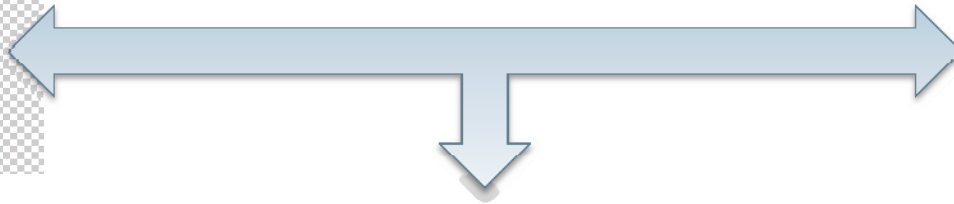
専門医や
専門職



ケース4 患者会アプリ



病名、自分の症状などを開示することで、
なりすましでない患者同士のコミュニティ
に入ることができる(匿名も可能)
問診票や自分の医療データ、ライフログを
開示することで、専門医、専門職から自分に
合ったアドバイスを受けることができたり、
希少疾患研究者とつながることができる

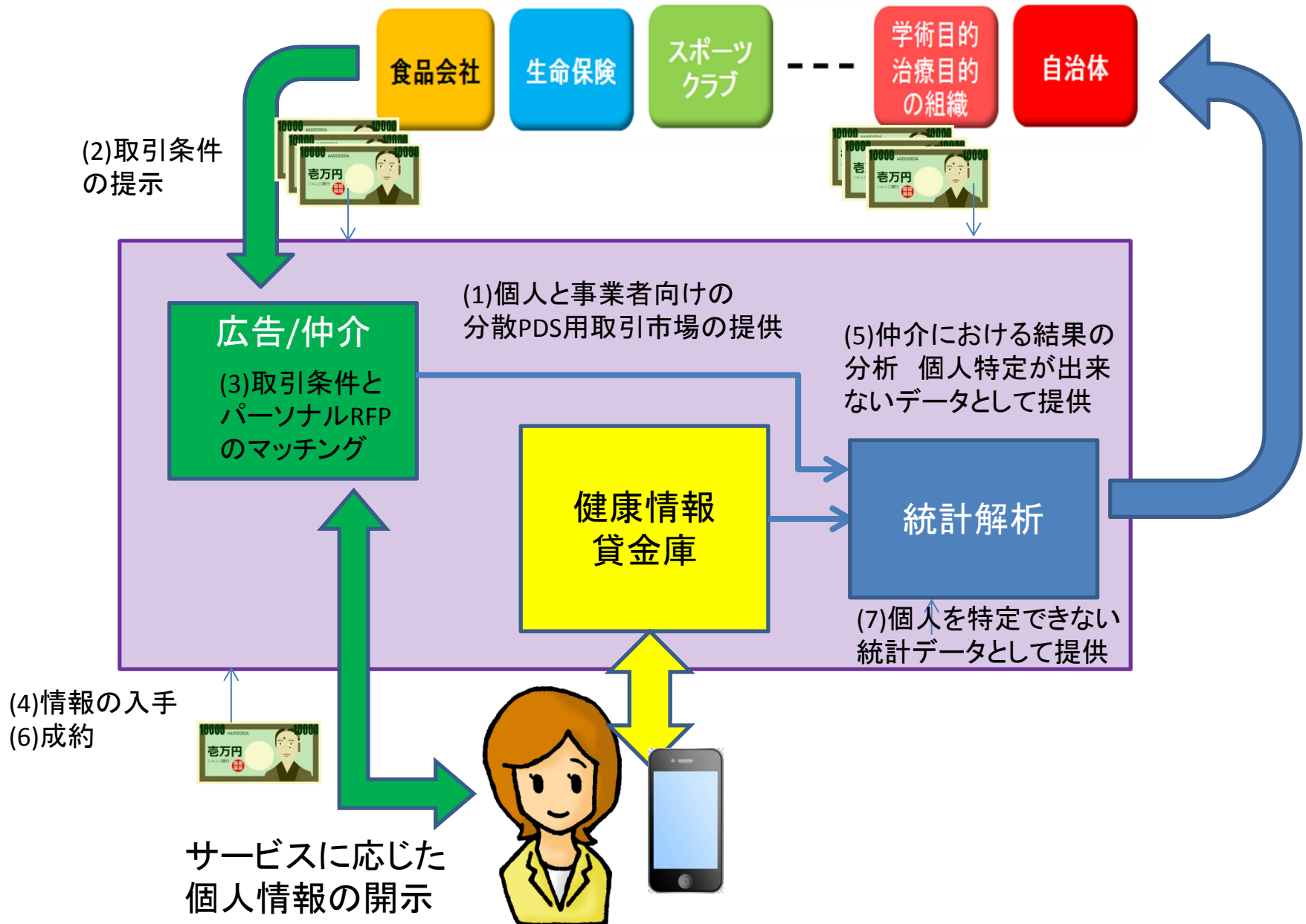


著作者: Vector Open Stock

専門医や
専門職



サービスモデルの仮説



今後の課題

ビジネスモデルにおける課題

取引情報の電子的提供

仲介者の資格

アプリ・サービス事業者の認定

分散PDSの普及策